

# 放送ジャーナル

平成二十八年十二月十三日(火) 一五五八四号

## 目次

◎ 『Abe Memorial Trust』の長期間コンテナー拡張計画の進展について

◎ 20年間の社会生活の推移と文化の発展

◎ 新たな企業文化の創造と発展

☆ 「鬼十則」社員手帳等への掲載・掲出廃止へ

◎ 菅野野田テレビ局長の推進

◎ 『ポケモン』欧州を心がけた世界カニ国で深夜放送決定

◎ ワイド・FMが開始

◎ TBS主催の東宝三鼓童も放送予定

◎ TFMは象予報と連携した企画

◎ TVO中間決算、スポーツ好調で増収増益

◎ 「第4回関西優秀賞」受賞作品が決定

◎ YTV協働読み聞かせ、インドネシアで授業

◎ 編集素材の流通

◇ 企業の別広告宣伝費・研究開発費の状況

□ 特集 『拡大する中国放送機器』

▽ 日刊『放送ジャーナル』の最新号のヘッドライ

http://www.hoei.co.jp/japan/hosojournal/



◎ ヌーベルアージユ、渋谷に8K編集室開設  
 編集はRio8K・22・2chモニタ設置  
 8K素材の4K・HD利用が可能かを検証へ

ニューベルアージユ(株)は、このほど8K/HDR編集および22・2chのモニタリング環境を備えた8K編集室『Edit 8K HDR』を渋谷区宇田川町の下田ビル内に完成、運用を開始した。NVC(株)グループのポストプロダクション部門で、スタジオ技術やENG技術サービスを行う(株)ヌーベルバーグ、制作等を行うニューベルメディア(株)と合わせて映像サービスのワンストップソリューションを提供している。

今回運用を開始した8K編集室は、メインの編集システム/グレーディングシステムにSAMのQuantel Rio 8K、8KレコーダーにパナソニックのSHV P2レコーダーAJ-ZS0500、8KモニターがシャープのLV・8500(85インチ)、4KマスターモニターがソニーのBVM・X300、さらにサブの4K編集システム/グレーディングシステムにAvi社のMedia Composer、トラックマジックデザイン社のDaVinci Resolve Studio、Adobe社のAfter Effects、朋栄の広色域・HDR変換プロセッサLMCC・8000、また22・2ch再生システム等を設置している。さらに、編集室とシンルームに隣接して編集室の効率的な作業を支援するインジェストルームを設置しており、ここで各種信号のインジェストやトランスコードを行うシステムとしてNHKエンタープライズが開発したnepefiniシステムおよびカラーフロント社のTranscoder、8K素材のLTOバックアップシステム、さらにカラーグレーディング作業用端末等を設置している。また、システムは全てにG・SDIで構築されている。

また、同社は8K編集室の開設にあたって、8Kで制作した素材が4K、HDでも利用可能かを検証するため、ワンストップの制作ソリューションを生かした8K/HDR検証コンテンツ『笠間』を制作し、11月に行われた内覧会やセミナーの場で披露した。今回の作品では、8K作品ながら、あえてHDの手法で編集したり、40文字以上のテロップを入れてHDにダウンコンしたり、さらに2020と709の色域の違い、HDR/SDRの違い等の多くの検証を行い、今後8Kコンテンツを4K、HDコンテンツにどう使っていくかの研究材料とするとともに、今後検証結果をセミナー等で発表していきたいとしている。特にノイズやフレアの除去にはRioのプラグインのNeat Videoが威力を発揮したという。なお、撮影はF65 RAWおよびRED Heliumで行われた。

編集室について常務執行役8K室担当の鈴木明氏は『2020年の東京オリンピック招致の決定により、総務省のロードマップに乗り4K/8Kの取り組みのなかで8K編集室の導入を決定した。4Kに関しては2年前から取り組みを開始し着々と準備を進めていた。今回の編集室のコンセプトは、8Kに加えて4K素材に関してはRAW収録の素材や、カラーグレーディングを行う作品はこの部屋を使用し、XAVCの4K素材はAviの4K編集システムと使い分けの提案を行っている。』と語った。

△ニューベルアージユ(株)＝www.nouv-age.co.jp